

幼児の気持ちの共有・表現、そして協同して取り組むことでの言葉の表現、コミュニケーションの活発化を目指す活動

メディア活用で共通体験や コミュニケーションが活発になるのでしょうか。

遊びの共有とコミュニケーション

毎日の園生活の中で、子どもたちがいちばん楽しみにしていることは、たくさんの友達と遊ぶことでしょう。メディアは、グループやクラス集団でイメージや思いを共有しながら遊びを組み立てていく環境のひとつとして活用することができます。

パソコンやテレビから映し出される映像には、水や土の中など日常子どもたちが体験できない世界を見ることができる大きな特徴があります。

動物園に遠足に行く前にクラス全員で見ることによって共通の知識や「アザラシって大きいな」というような感情を共有することにつながり、遠足当日の共有体験やコミュニケーションを深めることができます。

少子化の昨今では、同年齢の友達と大人数でメディア視聴体験できるのは、園ならではのといえるでしょう。

友達と一緒にメディアを使おう

このようにメディアから得た情報によって遊びの共有やコミュニケーションにつながることもありますが、メディアを他者と協同して作業を行う媒体にもできます。



たとえば、1台のデジタルカメラを利用して数人のグループが園庭の植物を撮影しているときに、使い方がわからなくなったとしたら、友達と考えを出し合って解決しなければなりません。また、1台を取り合いにならないようにルールを作って撮影することになります。そこでは、他者と協同していくことが必要になってきます。メディアは他の遊具に比べて細かい操作が多いため、言葉や行動で相手に伝えることや相手の話を注意してよく聞く、さらに一緒に作業を合わせることが求められるでしょう。

幼稚園教育要領 第2章 ねらい及び内容

人間関係 (8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。

保育所保育指針 第3章 保育の内容 2 保育の実施上の配慮事項 (4)3歳以上児の保育に関する配慮事項

ク 感じたことや思ったこと、想像したことなどを、様々な方法で創意工夫を凝らして自由に表現できるよう、保育に必要な素材や用具を始め、様々な環境の設定に留意すること。